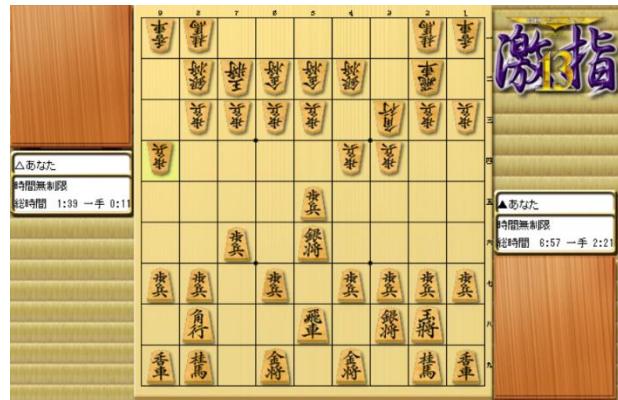


中飛車対策 相振り 2025.12.27

基本図 94 歩まで

**▲56 步 △34 步 ▲58 飛 △33 角
▲55 步 △22 飛 ▲76 步 △44 步
▲68 銀 △62 玉 ▲57 銀 △42 銀
▲56 銀 △52 金左 ▲48 玉 △72 玉
▲38 玉 △62 金上 ▲28 玉 △82 銀
▲38 銀 △94 步**



先手中飛車に対する後手相振り(向かい飛車)での対策となります。

向かい飛車のメリットとして、相手玉を攻めやすい、角交換に強いこと、金無双のメリットとして、打ち込みが少ない、美濃より寄せにくいことから、個人的に向かい飛車+金無双を好んで指しています。

2手目 34歩

まずは角道を開けます。

4手目 33角

中飛車には 33 角と向かい飛車の準備をします

6手目 22 飛

55歩と継に54歩と突いてきそうですが気にせず22飛と回ります。54歩からの飛車先の歩交換してきた場合は52飛とぶつけます。これは後で説明します。

8手目 44步

相手が角道を開けたら向かい飛車側は角道を止めます。これを忘れるとき角交換されて指しづらくなります。

10 手目 62 玉

まずは5筋から玉を遠ざけます。ここでも54歩からの飛車先の歩交換は52歩とぶつけます。

12 手目 42 銀

中飛車の左銀が中央にきそうなのでこちらも左銀で対応します。対中飛車の時の左銀は、向かい飛車の理想形が組めるまでは42銀が定位置で53の地点を厚くしておきます。43銀と上がりがちですが、そうすると相手の銀と交換になってしまふので、理想形組むまでは銀交換されないようにします。

18 手目 62 金上

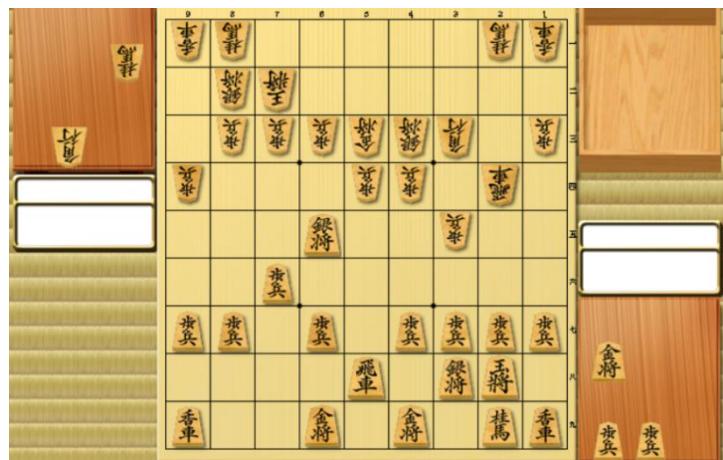
これで向かい飛車側の 53 の地点が金銀3枚になり、相当守備力が上がりました。この形を組めばどうぞ簡単に破られません。

22 手目 94 步

これで向かい飛車 + 金無双が完成です。途中で 24 歩~25 歩と早めに伸ばしておく手もありますが変に戦いが始まってしまうと自玉の整備に時間が掛かってしまうので、まずは金無双の完成をおススメします。8 筋や端攻めがまだないので、本当はこの形では 82 銀と上がらなくていいのですが、基本的な形ということでこの形にしています。この基本図から向かい飛車側は理想形を目指していきますが、無理やり 5 筋を攻めてきた場合どうするか説明します。

基本図△94歩から

- ▲65 銀 △24 歩 ▲77 角 △25 歩
- ▲86 角 △26 歩 ▲同步 △同飛
- ▲27 步 △24 飛 ▲77 桂 △35 歩
- ▲54 步 △同步 ▲同銀 △53 歩
- ▲同銀成 △同銀 ▲同角成 △同金上
- ▲65 桂 △54 歩 ▲53 桂成 △同金
- ▲65 銀 △43 銀

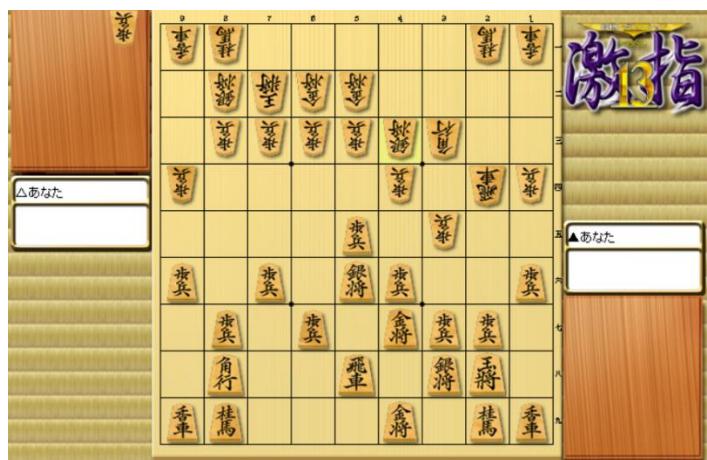


5筋の強襲はこのように成立しません。それも 42 銀で中飛車の攻めを受けています。

相振り飛車は非常に難しく、実は自分から動かないで相手が無理に動いてきた所を咎める方が勝ちやすいです。
次に向かい飛車の理想形を紹介します。

基本図△94歩から

- ▲96 歩 △24 歩 ▲16 歩 △14 歩
- ▲59 金左 △25 歩 ▲48 金左 △26 歩
- ▲同步 △同飛 ▲27 步 △24 飛
- ▲46 步 △35 歩 ▲47 金 △43 銀



中飛車に対して向かい飛車での相振り飛車にした場合の理想形になります。

ここまで組めたら 43 銀です。65 銀から 5 筋を攻めてきて 45 歩、同步、34 銀と 2・4 筋の攻めを見せながら 54 歩には 88 角成を見せておいて向かい飛車が指しやすいです。

ちなみに対中飛車だと 56 銀型が作れませんが、
相振り飛車での向かい飛車の理想形は
このような形になります。

級位者の棋譜を見ると 88 飛や左銀が 76 銀～
85 銀と逆棒銀のような形で攻めているのをよく
見かけます。しかし実際は 86 飛 + 66 角 + 56 銀
という陣形がバランスが良いので
相振り飛車の時はまずこの形を目指します。

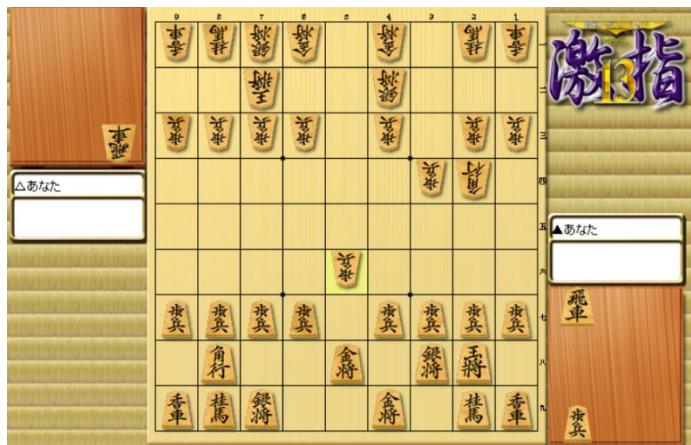


<早めに 54 歩と突いてきた場合>

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| ▲56 歩 | △34 歩 | ▲58 飛 | △33 角 |
| ▲55 歩 | △22 飛 | ▲54 步 | △同步 |
| ▲同飛 | △52 飛 | ▲同飛成 | △同玉 |
| ▲48 玉 | △62 玉 | ▲58 金左 | △42 銀 |
| ▲38 玉 | △72 玉 | ▲28 玉 | △24 角 |
| ▲38 銀 | | △56 步 | |



1手目で 54 歩と突いてきた時は強く飛車をぶつけます。56 歩、55 歩と中飛車は2手掛けたのに対して後手は0手で歩交換と飛車交換できるため手得となります。また、後手だけ角道を開けているのも大きく、後手の方が駒組みがしやすいです。



<76 歩、44 歩を入れた場合>

- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| ▲56 歩 | △34 歩 | ▲58 飛 | △33 角 |
| ▲55 歩 | △22 飛 | ▲76 步 | △44 步 |
| ▲54 歩 | △同步 | ▲同飛 | △52 飛 |
| ▲同飛成 | △同玉 | ▲48 玉 | △62 玉 |
| ▲58 金左 | △32 銀 | ▲38 玉 | △72 玉 |
| ▲28 玉 | △62 銀 | ▲38 銀 | △45 步 |
| ▲66 歩 | △24 角 | ▲65 步 | △56 步 |
| ▲68 銀 | △69 飛 | | |



1手目で 76 歩、34 歩を入れてから 54 歩と突いてきた場合でも飛車をぶつけて 24 角から 5 筋を狙っていくと、先手の方が飛・角の打ち込みが多いので後手の方が手得もした上に駒組みもしやすくなります。相振いは膨大な変化がありますが、立花は全て向かい飛車 + 金無双で不便がないので、自分の指しやすい飛車の位置と囲いを、見つけてそれを指し続けるのがおススメです。対中飛車の向かい飛車による対策の1例でした。